

# 分散同期型協働学習による非大学型高等教育 としての京都レッツラン大学校

NPO法人学習開発研究所

西之園晴夫

堀出 雅人

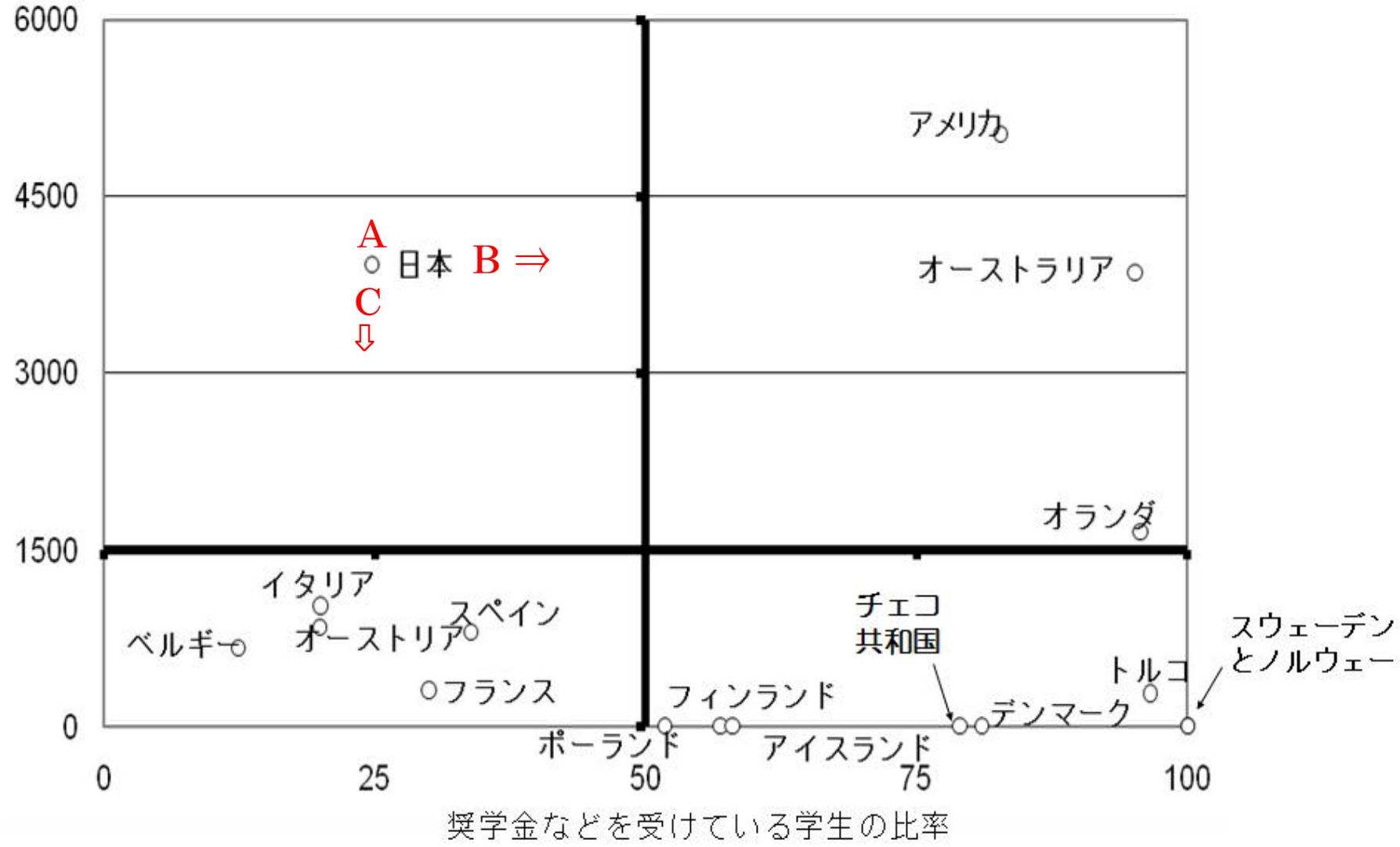
# 今日の内容

- あなたならどうする－3つの質問
- 大学型高等教育と非大学型高等教育
- これまでに経験したこと
- 今後の高等教育と協働(同)学習

# あなたならどうする3つの質問

- 問1 教育行財政の担当者として  
OECDのグラフから授業料の低減か奨学金の充実か
- 問2 知識基盤社会での教育担当者として  
教授者中心主義と学習者中心主義
- 問3 家計を預かるものとして  
子どもを大学に進学させるために何を節約しているか

米ドルでの平均授業料(国公立, 2004)

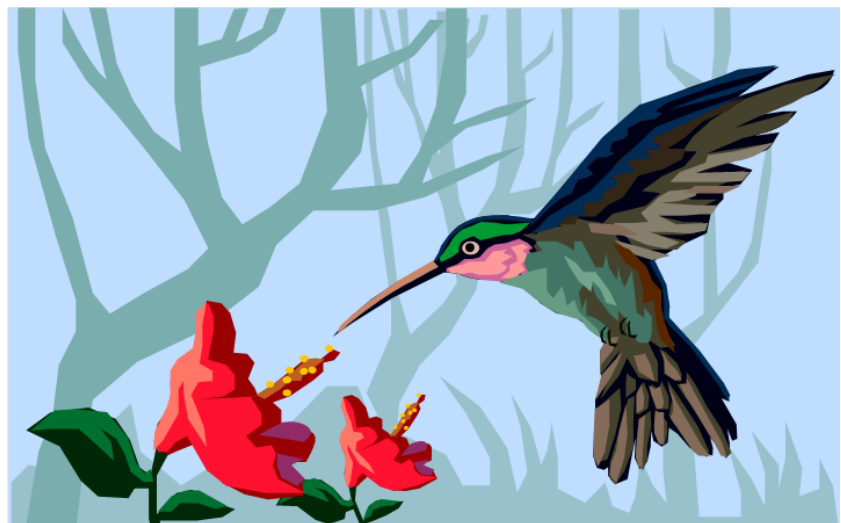


OECD Education at a Glance(2008)のデータから

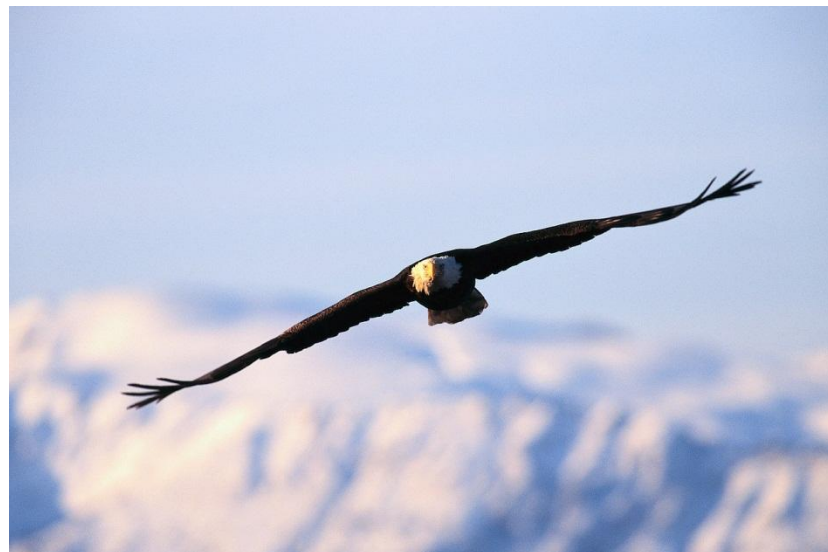
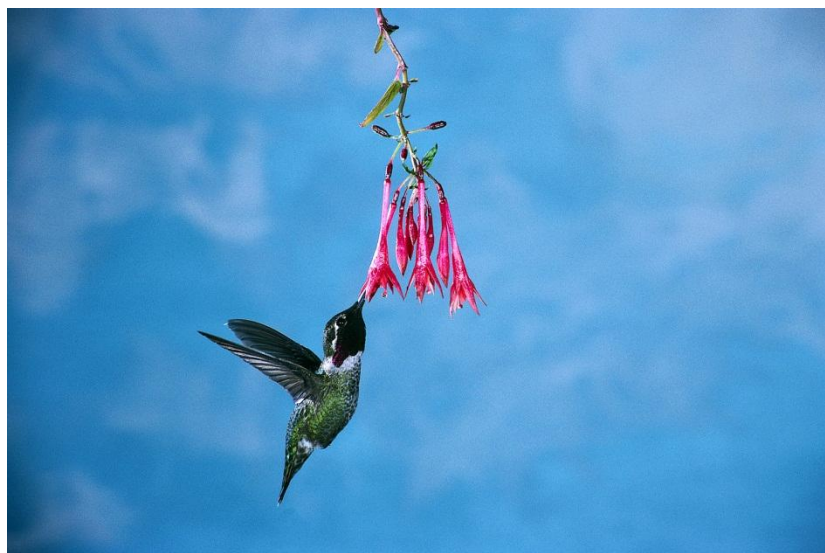
図 OECDの主要国の大学の授業料と奨学金などを受けている学生の比率

# 対照的な高等教育観

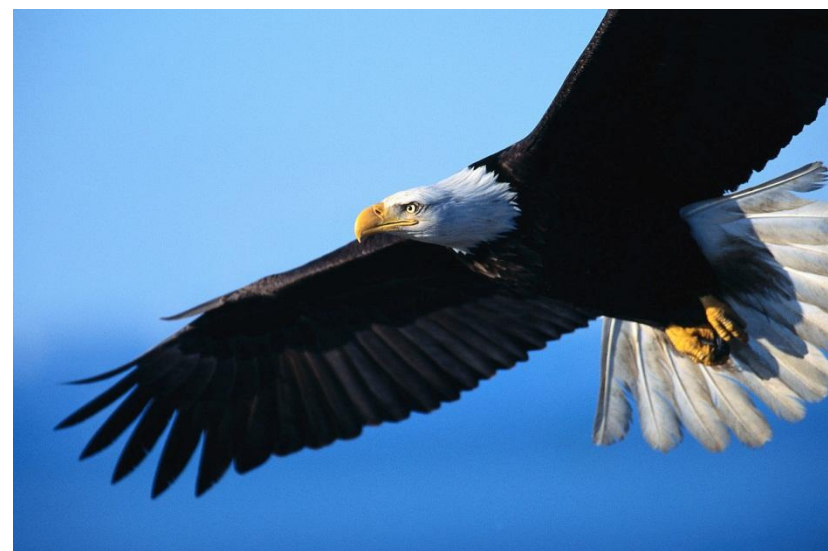
	A 教育重視の高等教育	A	B	B 学習重視の高等教育
1	学問, 科学技術, 経済の発展の重視			変動社会で安定した生活維持できる専門的職能習得
2	建学の精神, 学則の尊重			参加者の共有ビジョン, 学習者の積極的参加
3	商業資本の大きな影響と競争原理			個人の知識・職能資産の重視と学習者間交流
4	商業主義的な高等教育機関			福祉主義的な高等教育機関
5	大学間の競争原理とランク付け			相互依存と単位互換制と学習者の移動可能性
6	オープンキャンパスによる宣伝			オープンコースの試行による宣伝
7	対面少人数授業による師弟関係重視			学習者の協働学習による同僚関係の重視
8	教師が努力する羽ばたき飛行の比喻			学習者の学習の原理を活用した固定翼飛行の比喻
9	教授者主導とFD活動の重視			協調自律学習と学習支援の重視
10	基礎からの積み上げ方式			即戦力的初期学習と基礎力補強方式
11	教育内容と授業時間の重視			習得された能力と学習成果の重視
12	高額の授業料と奨学金			無償あるいは低額の授業料と相互扶助
13	経済的に恵まれた人々に有利な教育をうける機会			経済的に恵まれない人々にも平等な学習する機会
14	国際化, グローバル化への対応重視			地域社会の活性化, 格差是正の重視
15	多人数一斉指導と対面少人数教育			少人数グループの協調自律的な分散学習
16	教室内授業の重視と情報端末の限定的な活用			あらゆる場所での学習と情報端末の最大限の活用
17	キャンパス学習の重視			職場学習, 在宅学習の重視
18	公式学習(formal learning)を基盤			不公式・非公式学習(non-formal & informal learning)の認知



ハチドリの中停止



大鷲の長距離飛行



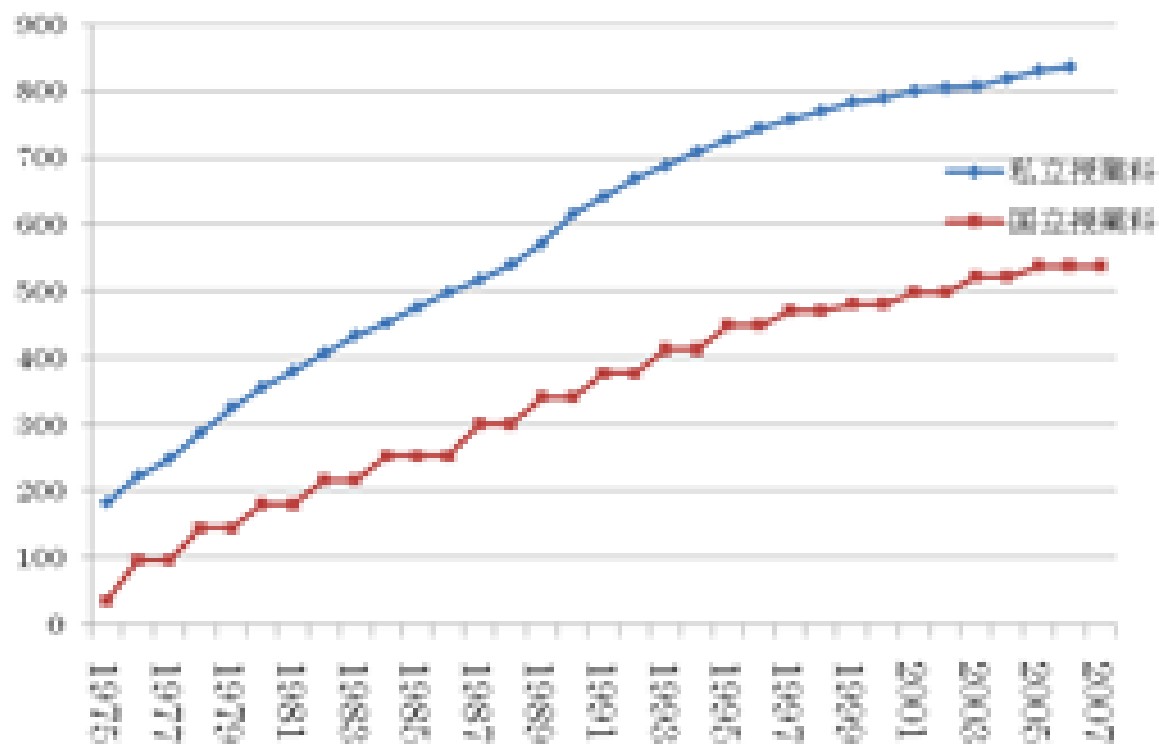
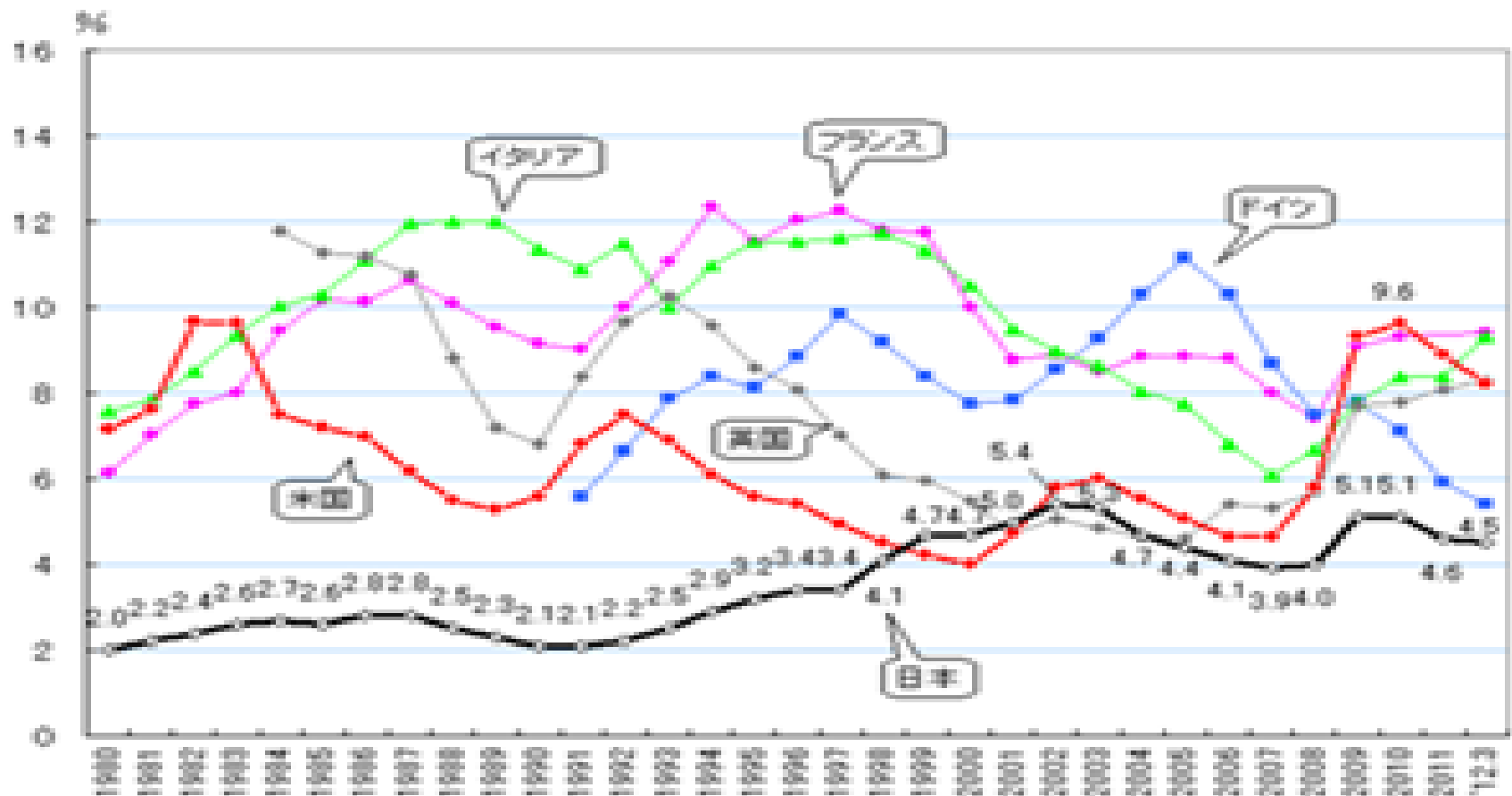


図 1 ・ 5 1975 年以降の授業料の高騰ぶり  
文部科学省

# 高等教育における改革

- 高等教育普遍化を認識した時期の欧米とのズレ
  - 欧米では1960-70年代の考え方, 1990年代に現実化の意識
  - 21世紀に入って高等教育の急速な進展
    - ・ 数多くの失敗からの教訓と学習ニーズの認識
  - 高い失業率と学校・大学から社会への移行問題
  - 福祉政策の行き詰まりと教育コストの限界
  - 生涯学習と生涯スポーツの考え方の更なる進展





(注) 最新月を除き年平均。最新月は季節調整値。表側月以外の場合、上に表記。

(資料) 日本は総務省「労働力調査」、その他の国は、2007年までは世銀WDI Online 2009.11.12、2008年以降の年・月は総務省「労働力調査」資料館による(オランダ、スウェーデンはEUROSTAT,年次はLFS adjusted series, 月次はHarmonised unemployment rateによる。ロシアはOecdStatのLabour Force Statistics, s.aによる)。

図 1・1 世界の主要国の失業率(日本と欧米)

## 大学型高等教育が当面している課題

- 授業料高騰の抑制
- 学生の積極的な参加による学生満足
- 授業内容の不要な重複の整理
- 確定した内容の習得から能力習得への転換
- 専門基礎能力の重視による学問・学術の進歩
- 内容の専門性と学習指導の専門性の統合的習得

# 非大学型高等教育の可能性

- 授業料の抑制の可能性⇒不(非)公式学習の認知
- 学習サービス業の国際規格ISO29990の発足
- 中小企業の技術者の学習機会の提供
- ICTの普及と学習能力の重視
- 職業能力の重視による生活の安定化
- 教育内容の専門性と学習指導の専門性の分化
- ICT及び学習科学と学習工学の急速な進歩
- 経験則の見直し(組織シンボリズムと組織論)

# これまでに経験したこと

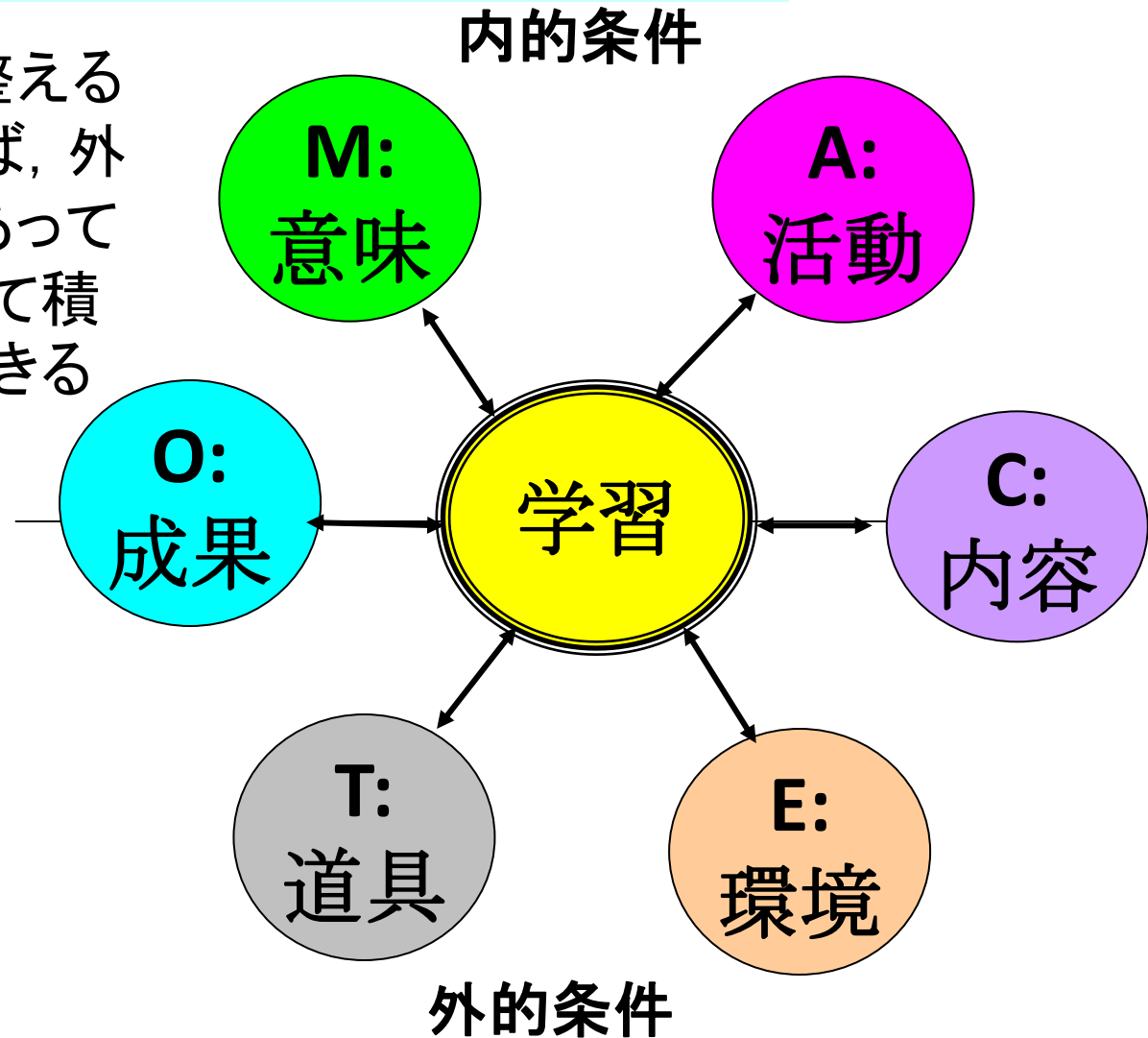
- 多人数授業での多人数協調自律学習と遠隔の試み
  1. 1999年～現在 教育方法学, 最多276名
  2. 2008年～2011年 中学校教育研修 最多91名
  3. 2009年～2011年 京都レッツラン大学校の構想
- 2012年～小規模試行講座から本格的講座の実施へ
  - 分散同期型協働学習
  - 地域密着型, 在宅職場ベースの高等教育
  - 中小企業が有する研修用教材の活用
  - 既存の大学型教育との連携が課題

# 協調自律学習の開発経緯

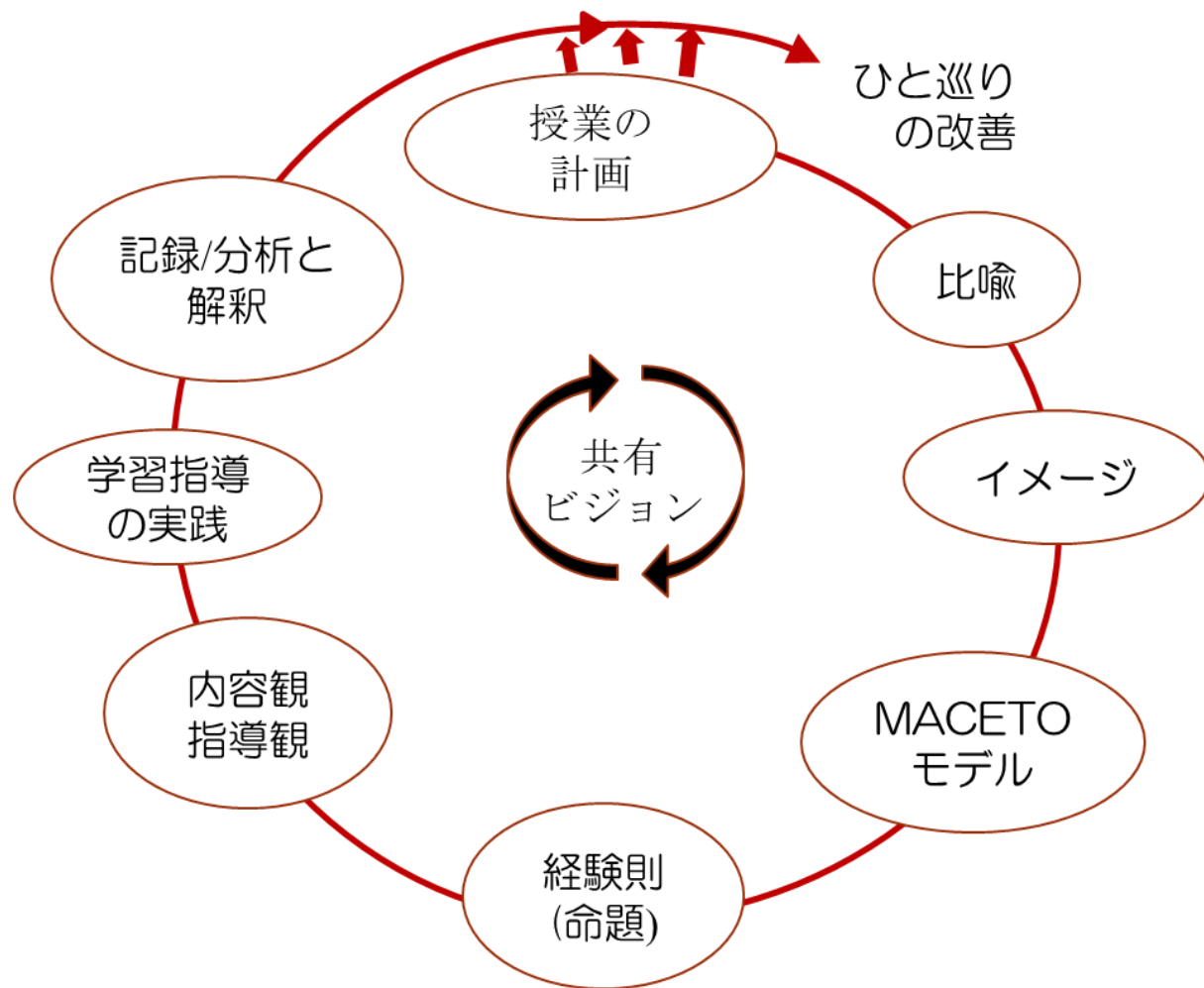
	「教育方法学」の授業	中学校教員の初任研修	高度技術者実力向上研修
期間 人数と	最多276名、15週間 2000年～	最多92名 4日間の集中研修 2008年～	15週間相当、遠隔学習、 開発段階 2010年～
フメ アタ	金工・木工の工作技術 から醸造技術へ	洋服仕立屋(テーラー)の イージーオーダー	羽ばたき飛行から 固定翼飛行へ 自主ゼミコミュニティ
モデル図 イメージ図	<p>この図は「学習事象」を中心としたモデルを示しています。中心には黄色い円に「学習事象」とあり、その周囲には8つの円が配置されています。上部は「内的条件」で、M:意味、A:活動、C:内容、E:環境の順に時計回りに並び、下部は「外的条件」で、T:道具、O:成果の順に並びます。矢印は中心から各要素へ向かって伸びています。</p>	<p>この図は学習プロセスの循環モデルを示しています。中心には「自己実現」の文字があり、その周囲には8つの要素が円周上に配置されています。時計回りに「同僚/分析の解釈」、「学習指導の実践」、「生徒観教材観指導観」、「経験則(命題)」、「MACETOモデル」、「イメージ」、「比喩」、「設計者個人の知識・力量」です。赤い矢印は外周を時計回りに循環し、最上段の「設計者個人の知識・力量」から「ひと巡りの成長」として矢印が外へ伸びています。</p>	<p>この図は教材の開発と修正のイメージ図を示しています。左側には「CMOSアナログ回路のCD教材」があり、「インターネット」、「テキスト」、「生成的道具」、「参考文献」を通じて「グループ学習」へと繋がります。グループ学習からは「成果物」と「職能資産」が生まれます。また、「満巻モデル」のアイコンがあり、右側の「職能資産」から左側の教材開発へと戻る矢印が描かれています。下部には「教材の開発と修正のイメージ図」というキャプションがあります。</p>

# MACETOモデル

生徒の内的条件を整えることに成功するならば、外的条件が不十分であってもその困難を克服して積極的に学ぶことができる



# 京都市教育委員会主催の中学校初任者研修会



渦巻きモデルの各要素

# セイフティーネットとしての 京都レッツラーン大学校

中小企業のエレクトロニクス技術者の実力向上プログラム

CMOSアナログ回路講座(阪大工学研究科谷口研二教授)

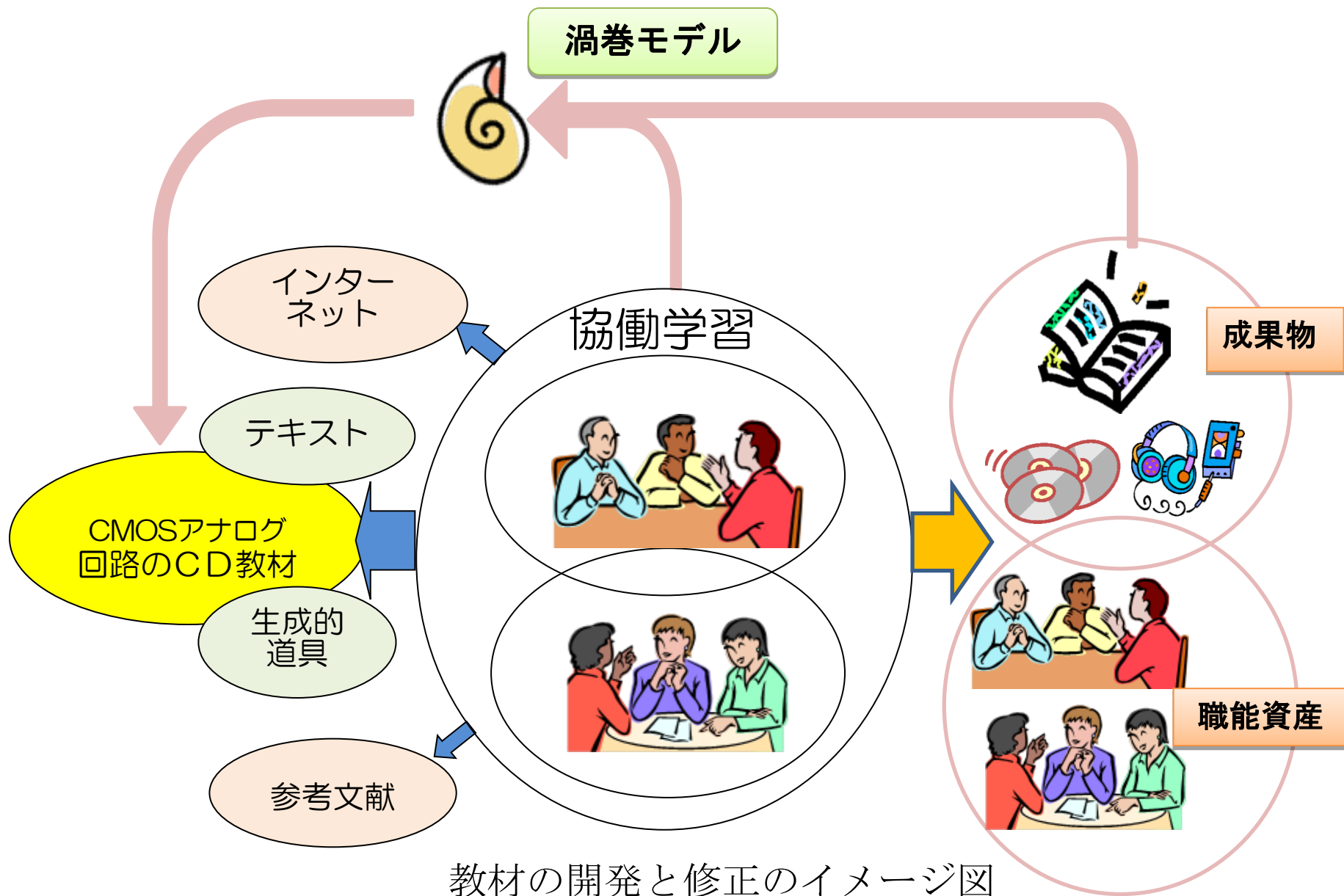
**2009-2011年度 京都府委託事業**

**2010-2012年度 科学研究費補助金**

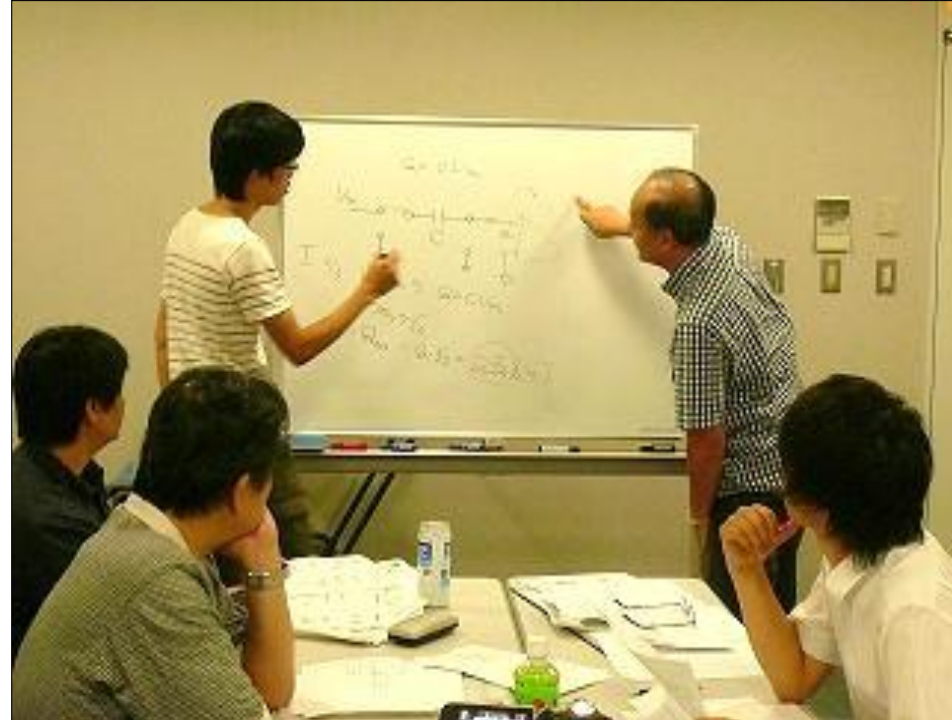
小規模試行講座から多人数分散同期型協働学習へ  
学習の自律化と学習管理の自動化  
通常受講料から低額の受講料へ



# 協働学習のイメージ図



教材の開発と修正のイメージ図



# 学習サービス業の国際規格（ISO-29990）

- 多様化への対応での教育コストの抑制
- 成人教育からみた大学教育の主体的学習力
- 知識基盤社会での生涯職能学習の基礎
- 変動社会における教育と学習の主体者の変化

# 国際規格学習サービス業(ISO-29990)

- 3 学習サービス
  - 3・1 学習ニーズの明確化
  - 3・2 学習サービスの設計
  - 3・3 学習サービスの実施
  - 3・4 学習サービス提供のモニタリング
  - 3・5 学習サービス事業者によって行われる評価
- 4 学習サービス事業者のマネジメント
  - 4・1 一般マネジメント要求事項
  - 4・2 戦略及びビジネスマネジメント
  - 4・3 マネジメントレビュー
  - 4・4 予防措置及び是正措置
  - 4・5 財務管理及びリスク管理
  - 4・6 人事管理
  - 4・7 コミュニケーションマネジメント(内部／外部)
  - 4・8 人的・物的資源の割り当て
  - 4・9 内部監査
  - 4・10 利害関係者からのフィードバック

# 教育応用・実践研究を考える枠組み

## Furlong & Oancea(2005)

研究の品質に関する次元				
	認識論的：方法論 と理論の厳格さ	技術論的	可能性の開発と 人々にとっての 価値	経済性
研究の品質に関する下位次元	信頼性	目的・意図	妥当性	市場性と競争力
	既知のことに 積み重ね、 知識に貢献する	卓抜性/適時性	パートナーシップ、 協働、積極的 関与	費用対効果
	明確性	特殊性と 利用しやすさ	再帰性、慎重さ、 批評	監査力
	適切さ	インパクトを 与えること の関心	受容	実現可能性
	パラダイムに 沿った規準	柔軟性と 操作可能性	変容と 個人の成長	独自性
	科学的な厳格さ	社会・経済的厳格さ		

付表3 教育基本法と京都レッツラーン大学の学習基本宣言(案)の対比

	わが国の教育基本法	京都レッツラーン大学の学習基本宣言(案)
前文	<p>我々日本国民は、たゆまぬ努力によって築いてきた民主的で文化的な国家を更に発展させるとともに、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献福祉に貢献することを願うものである。</p> <p>我々は、この理想を実現するため、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。</p> <p>ここに、我々は、日本国憲法の精神にのっとり、我が国の未来を切り拓く教育の基本を確立し、その振興を図るため、この法律を制定する。</p>	<p>変動する社会にあって「出会いと共修」を合言葉にして、社会的経済的文化的理由で公式教育による専門的職能の学習を享受することができない人に対しても相互扶助の精神に則り、お互いに支援し、国際的に承認されている学習権を認知し、公的資金、企業および各種団体からの貢献ならびに市民の寄付などによって運営されていることを自覚し、つぎのような目的ならびに理念の達成を目指して学習することを宣言する。</p>
第一条	<p>教育の目的及び理念 (教育の目的)</p> <p>教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。</p>	<p>学習の目的及び理念 (学習の目的)</p> <p>学習は、変動社会において人間の尊厳を尊重しつつ生活を安定させるために、変化する専門的職業に対応してたえず新しい職能を習得することを目的とする</p>

<p>第二條</p>	<p>(教育の目標)</p> <p>教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。</p> <p>一.幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。</p> <p>二.個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。</p> <p>三.正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。</p> <p>四.生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。</p> <p>伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<p>(学習の目標)</p> <p>学習は、その目的を実現するため、人間としての尊厳と学習権を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するように行う。</p> <p>一.幅広い知識と教養を身に付け、平和と共生を希求する態度を身につけ、職業倫理を尊重するとともに、健康な生活が享受できるように身体を鍛える。</p> <p>二.個人の学習権を尊重し、その能力を伸ばして創造性を発揮し、自主及び自律の精神に基づいて、職業及び生活との関連を重視した専門的知識と技能と態度を習得する。</p> <p>三.公平と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与できる能力を習得する。</p> <p>四.生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を身につける。</p> <p>伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を身につける。</p>
<p>第三條</p>	<p>(生涯学習の理念)</p> <p>国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない</p>	<p>(生涯学習の理念)</p> <p>われわれ一人一人は、変動する社会にあって、経済的に安定した人生を送ることができるよう、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習し、その成果を適切に生かすことのできる専門的職能を習得できるような生涯学習社会を実現することを目指して努力する。</p>

# これからの高等教育

- 自然淘汰を待つか
  - 教育理念の堅持，大学ランキング，教育者と学生の師弟関係の重視，多人数教育への消極的な評価
- 新しい顧客を開拓するか⇒多人数教育
  - 社会人・職業人の学習ニーズへの対応
  - 学生同士の協働学習による切磋琢磨
- 大学型高等教育と非大学型高等教育
  - 教育基本法，学校教育法，大学設置基準
  - 科学技術の振興，文化・人間性の涵養
- 学習権，職業能力開発促進法，職業能力評価基準  
生活の安定と向上
- ICTと学習科学と学習工学や，組織論などの進歩



# レッツラーン大学校を考える会

- 第1回
- 2012年7月21日 14時から17時まで
- 開催日時 7月から原則として毎月第3土曜日の14時～17時
- 場 所 キャンパスプラザ京都 6階京都教育大学サテライト教室
- 参加費 資料代として1,000円(学生は500円)
- 担 当 NPO法人学習開発研究所内設立準備室(略称KSPL)
  
- 2回以降の開催予定
- 8月18日(土) 試行講座への参加者による体験談と意見交換
- 9月22日(第4土曜日, 学会開催日を避けて) 開講可能な講座の提案と検討
- 10月20日(土) 開講の授業参観と意見交換
- 11月17日(土) 開講する講座内容の提案と検討
- 12月15日(土) 開講する講座内容の検討と来年の企画